

おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー部報第 5 号 (5 月 24 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

地区総体 粘りのみ通用

5 月 13 日 (土)、14 (日) 地区総体が聖地山形市スポーツセンターにて開催されました。山東は、規定により、昨季 Y リーグの結果に基づき、県総体への出場権を獲得しているので、この地区総体は山東にとって県総体の切符をつかむ大会ではなく、**県総体へ弾みをつける大会**と言える。平たく言えば消化試合ですが、他のチームもガチンコで来るので (**地区大会を大切にす姿勢は地区として続けていきたい**)、山東も負けじと頂点を狙いに行く。もちろん、怪我がちな選手もおり、部員の少ない山東としてはここで新たな怪我人が出るのも怖く、正直、県リーグ・県総体で出場機会のない選手をどんどん出したい大会ではあるのですが、他のシード校の熱意に見習い、しっかり地区大会を戦うつもりで合わせてきた。故障がちな選手も、「地区総体までには治します」と地区総体への意気込みを見せ、頼もしい。

山東の初戦の相手は、山形城北。村山地区リーグ (M リーグ) のブロック予選で辛くも 1 位となり、県総体の切符をつかんだ。**監督の W 辺先生**は、指導力でもギャグセンスでも地区を牽引する存在で、以前は中学段階で出場機会の恵まれなかった選手を育てながら、強豪チームを作り上げ、「W 辺再生工場」「コスパ No.1 チーム」と一部顧問が呼んでいた。よく春先に「いや～、ダメです」と弱音を吐くも秋口には好チームを作り上げるので、私などは「W 辺先生の嘆きに騙されてはならない」と弱音に接するたびに警戒感の高まるのが条件反射となってしまっている。しかし、近年は選手数に恵まれ、東海、明正と並ぶ一大勢力となっており、城北は再生工場ばかりではなくエリート養成所の性格も併せ持ってきた。

13 日、**清野総監督、工藤先輩、後藤報道局長**のいつもの御三方が、いつも通りお越しになる。**たくさんの保護者及び保護者 OBOG**も、いつも通り応援にいらっしやう。お世辞ではなく、**後援会・保護者会の熱意は全国クラスです!** 保護者の皆さまなど、山東の選手数が少ないからまだ「溢れて」ないけど、これが上記三校レベルの選手数がいたらどうなってしまうのだろう、というくらい、よく集まっている。また、**山東応援団チアの皆さま**も応援に駆けつけてくれた。故障で出場見込みのない **2 年漫才師タカヒラ**などは、「タカヒラ、お前、出ないんだから、今日応援の方でやれ」と顧問より言われ、チアの前でベンチ入りの姿を見せられないことに悔しさをにじませる。

試合が始まると、良い守備から良い攻撃につなげる城北の試合運びの良さが目立つ。トップの選手のボールキープ力を活かしつつ、うまくサイド攻撃につなげる。**山東は、相手 DF 前でパチパチつないで巧い振りしているものの、まったく崩せていない。** ボール保持率で山東、シュート数で城北という前半。山東の試合内容は決して良いとは言えないが、そんなことは想定済み。もちろん結果は狙いつつ、県総体を見据えて設定したこの大会のテーマ

がうまく実現されているかも重要。後半は山東のディフェンスが機能し、城北にあまりチャンスを与えず。CK から **3年CB 秘密主義者タイセー** がボレーで合わせ均衡を破り、結局その1点を守り切り、**1-0で山東の勝利**。

翌14日は日大山形との対戦。リーグ戦では辛くも引き分けたものの、1試合トータルで観て、かなりやられていた。日大のY先生からは「直近の試合で引き分けたのに何言ってんだ」とお叱りを受けたものの、やはり日大との試合前には「刑場に引かれる死刑囚」の気分になってしまう。すなわち、「さあ、やってやるか」という意気込みよりも、「どんだけやられるんだろう」という恐怖感がつつい先立ってしまう。そして、「いやいや、そんな弱い気持ちではダメだ」と心の中で葛藤を繰り返す羽目になる。前に書きましたが、**日大との戦いは気持ちの戦いでもある！**¹

さて、この試合、日大のサイド攻撃、CKから決定機を5、6度作られるものの、日大の選手が「得点は県総体まで取っておくよ」と手加減してくれたわけではないでしょうが、外してくれたおかげで、失点ゼロ。山東の選手も、**顧問や3年生の前では真面目なふりして2年の中ではフラックな発言を連発する新キャプテンの2年フトシと、小さくかわいい振りして獰猛なアライグマのような2年キクチャン**が、併せて3度ほど決定機をつかむも、スキル不足（シュートのスキルまたはシュートするためのスキル不足）により、逸機。結局この試合、**スコアレスでPK合戦へ**。県総体ではPK合戦があるため、「ちょうどよい経験となった」と内心喜ぶ。「ここでハレル、爆発しないかな（ビッグセーブ連発しないかな）」と期待しましたが、逆に相手GKが爆発し、結局PK合戦負け。内容としては、日大のサイド攻撃の威力を再認識した戦いでした。山東も、DF、MFが競り合いで勝つシーンも多く、「うちの選手もリーグ戦を通じて自信を持って日大の選手に対峙しているな～」と頼もしく思うことが多かった。**山東伝統の粘りは健在！ こう思えた地区総体でした。**

結局地区総体は決勝で日大山形と東海大山形が当たり、日大の勝利。日大の優勝で幕を閉じました。山南が2得点后、山商に3失点し敗北したり、Y2在籍の実力校山工が県総体の切符を逃すなど、波乱もありましたが、**地区での切磋琢磨がお互いのレベルアップにつながっていることを実感させられた、そんな地区総体でした。**後援会の皆さま、保護者の皆さま、応援団チアをはじめとする学校関係者、応援ありがとうございました。県総体でもよろしくお願ひします。山東はシード校のため、2回戦から登場します。

5月28日（日）県総体2回戦 VS 鶴岡東と上山明新館の勝者 11:00～

@ 東根市中央公園多目的広場（旧東根工業高校跡地）

Y1第5節 またもや後半の連続失点でドロー

5月20日（土）地区総体から1週間後、県総体1週間前のタイミングでY1第5節モンテユースB戦が県総合運動広場（ベニバナスポーツパーク）第二運動広場にて行われました。

¹ 部報第3号で、平成20年の地区総体で勝って以来、日大への連敗が続いていると書きましたが、よくよく思い出してみれば、誤っていました。コウタの代（山東第65回卒）の地区新人戦（25年度）で、日大山形Gにて日大にPK合戦で勝ってますね。失礼しました。

当初、県総体の 1 週間前は調整機関としてリーグ戦を開催しない予定でしたが、諸般の事情によりそうも言っていられなくなり、毎週休みなく公式戦を実施。相手はモンテユースB。モンテユースAは現在東北リーグ（プリンスリーグPL東北）に在籍しており、優勝争いを演じている真っ最中。今年から、PL東北の持つ、全国リーグ（プレミアリーグEAST）への昇格決定戦に参加する枠が、1 つから 2 つとなり、大幅にチャンスが広がったが²、その中でモンテユースAはJの下部組織として恥ずかしくない立派な戦いをしている（現在青森山田Bに続き 2 位³）。この日の午前も、福島の高豪尚志高校と対戦し、しぶとく勝ち点 1 を分け合った。

それに続く午後は、モンテユース B の出番。**B チームと言っても、モンテユースはセレクションを経た山形県内外のサッカーエリートであり、今年の県トレセン（U16 の県選抜）と昨年の県トレセンによって構成されていると言っても過言ではない。**ただここまで（第 4 節まで）、さすが Y1 と言うべきか、1・2 年生のサッカーエリートに対して 3 年生中心の高体連のチームが勝負強さを発揮し、モンテユース B に勝ち点を 1 しか与えていない。とはいえ、スキルのある選手たちでしょうから、山東が本領を発揮させてしまうかもしれない。さあ第 5 節、どんな戦いとなるか。

この日は 5 月とは思えない暑さで、午前の PL の試合の段階で飲水 time を設けたくらい。日差しもきつく、第 3 節のメガネ破損時に買い替えた際に作ったサングラスが有難く感じられる⁴。**清野総監督（後援会名誉会長）、工藤先輩、後藤報道局長**のいつも御三方は当然として、**岸後援会長**もお見えになった。だけではなく、**齋藤 GK コーチ**と仲良く歩いてくるのは、**名和さん**ではないですか！ ご存じない方は HP 上で 28 年度部報第 14 号をご覧ください。山東サッカー部「出身」で初の海外プロチームに在籍したトレーナーとして、齋藤 GK コーチ、そして**口でフレーをする 3 年カンタ**と同じ東根市羽入出身。ビザが下りず、このたびチームを離れることになったそうで、一時帰国したタイミングで山東の試合を観に来て下さいました。さあ、役者は揃ったという感じ。**高橋コーチ、志村先生**もいて、何か今日はオールキャストだ。

試合が開始されると、試合の入り、山東悪くない。ラッキーな判定にも助けられ、入りに攻め込むと、ペナルティエリア付近で FK を得る。いつもなら、「**カイト、力むなね**」などとちょっと引いた感じで（あまり期待をせず）観るのだが、その日はちょっと違った。数日前の居残り練習時にある確認を行い、FK に対する彼の中のハードルを少し下げさせた。というので、いつもより期待して観ていると、**練習通りの軌道でスバッと決め、GK に触らせないファインシュート炸裂、山東先制。**その後、モンテにボールを持たれる時間もありましたが、粘り強く守り、土俵を割らずにいると・・・前半何度かあった山東の CK、前半半ば過ぎの CK 時に、ファーサイドに流れたボールを**キクチャン左足ボレー**、そしてそれが誰かに当たってゴール前のゴチャゴチャしているところで**タイセーが押し込み、山東セ**

² 青森山田 A のプレミアシップでの優勝（プレミアリーグ EAST で優勝し WEST との決勝戦も制した）と全国高校サッカー選手権での優勝のおかげで、PL 東北の持つ枠が増えました。

³ A と B は同一リーグに在籍できないため、青森山田 B にはプレミアへの昇格権利がないため、現時点での成績を前提にすれば、モンテユース A は東北 1 位の枠で昇格決定戦に臨むことができる。

⁴ 多くの方から「柄が悪い」と不評ですが、個人的には気にしています。見た目もありますが、やはり逆光の際の試合の見づらさにこれまで苦労させられてきたので。某所でたくさんペカってもいいようにと着用して行ったら、まったくペカりませんでした・・・。

ットプレーで2点目ゲット。「何だ、『モンテユース B の最初の餌食になるのは山東か』と心配していたが、大丈夫じゃないか」と気分も上々。しかし、**これまでのY1での後半の逆転負けを経験しているだけに、2点じゃ足りない、3点目が欲しいと思ってしまう**。後藤報道局長は HP 上で「この時点で後半の展開を誰が予想できようか」というような内容のコメントを残しておられましたが、ベンチでは我々スタッフ、「このチームにとって前半の2点はセーフティリードじゃないからね」と話し合っていた。とにかく、前半のモンテユース B の選手、きれいに攻めているつもりかもしれないが、ちょっと寄せるだけにボールを下げて攻め直してくれるので、山東としては守備しやすかった。

そして後半、まず右サイドのセットプレーから誰かがスルーしたのを**ベジ**がダイレクトで（ワンタッチで）打ったシュートは惜しかった。相手に当たりゴールまで飛びませんが、アイデアといい、シュートの思い切りといい、後半にも期待を持たせました。が、**時間とともに、モンテユース B が底力を発揮する展開に**。相手ボランチが山東ボランチのプレスをかいくぐりトップに当ててインサイドからグイグイ攻めてくるし、そう思わせておいて、アウトサイドからも積極的に来る。そうなんです。モンテユース B の選手、きれいにやり過ぎようとせず、貪欲にゴールに向かってくればいいんです。君たちにはそもそもその力があるのだから。そちらの方が相手チームとしては嫌ですよ、そりゃ。ということで、**後半明らかにワンサイドゲームになる。後半山東の勢いが落ち、受けに回り、相手の攻撃が勢いづき・・・という展開は、Y1 第1節から繰り返しているゲーム展開であり、その状態から山東はずっと脱却できないでいる。監督の私も、どうしてこう前後半でガラリと違うチームになってしまうのか、理由がわからないでいる**。こんな展開の中・・・FK にて出された横パスへのアプローチが遅れ、というか、そもそも横パスを受ける相手選手への距離を詰めていた選手がおらず、出されてから慌てて寄せるものの、相手は落ち着いてコントロールしツータッチ目でミドルシュート一閃。**ファインシュートが突き刺さり、2-1 へ**。「次の1点がどっちに入るかでゲームが決まる」とはベンチでスタッフ同士話しかけていたことで、これでいよいよ試合は怪しくなってきた。ワンサイドの流れを変えられず、終始押される展開の中、いよいよアディショナルタイムを凌ぐだけという時間に、相手に CK を与える。もちろん悪い予感しています。相手 GK は駆け上がってきた。数年前、モンテのトップチームで GK 山岸選手が大事な試合で CK から得点しましたよね。まさかそんなに簡単に行くかと思いつつ、やはり本音は冷や冷やして観ていると、GK のヘディングという訳ではないものの、ファーサイドで競り合ったこぼれ球に反応したのはモンテユースの選手だけ。こぼれ球をねじ込まれ、**アディショナルタイムでの同点弾を喫する**。いやはや、われわれ勝負弱いね。その後、逆転弾を喫してしまうのか、というシーンも作られ、辛くも！**2-2 のドロー**。山東がセットプレーから2点先制し、そして後半セットプレーから2点返された、という試合でした・・・。

いや～、モンテユース B は強かった。そして後半の山東、弱かった。監督自ら、反省、猛省するのは当然なのですが、**何をどう反省するのか、整理が必要**（そしてこの整理がめちゃくちゃ重要）。とにかく、県総体に向け、ちょっとばかし（いやかなり）不安な船出ですが、まずは思い切って試合に臨みます。今週末応援よろしくお願いします。